

動物の分布・密度・行動特性を考慮した 包括的ハビタットモデル手法の開発

山本 誉士 データ同化研究開発センター 特任研究員

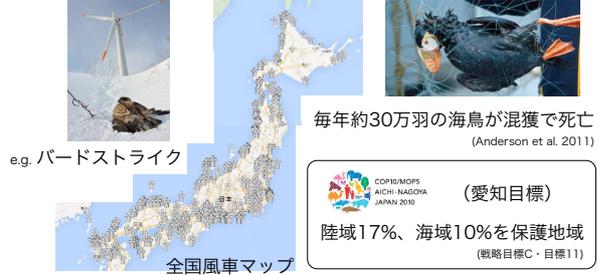
野生動物による人的被害

農林水産資源の食害、外来種の生息域拡大、遭遇事故 etc.
→ 経済的損失 (被害総額は>170億円/年) ・ 生態系の改変



人間活動による野生動物への影響

開発による生息地の変化、漁業活動に伴う混獲 etc.
→ 生物多様性保全・環境アセスメント手法の向上



共通する解決策は「動物の空間分布動態の把握」→ だが、全ての場所を調べることは難しい

各生物には好みの環境がある (生態的ニッチ)

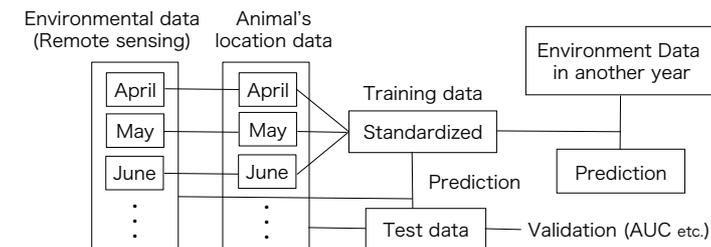
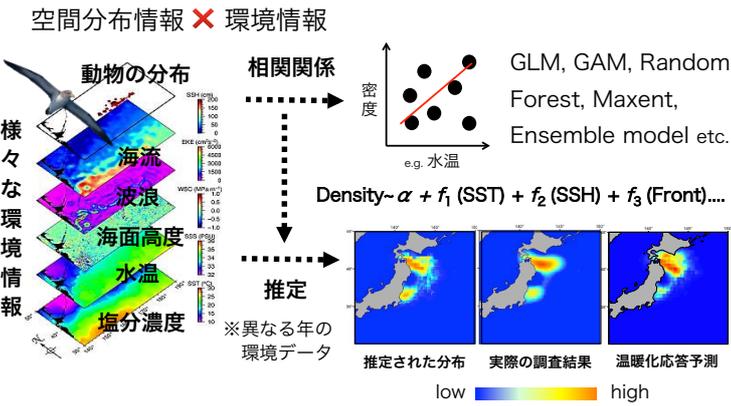


利用環境の特徴を特定 (Elith & Leathwick 2009, Nur et al. 2011, Hazen et al. 2012)

Bio (生物) logging (記録)



e.g. 海鳥の海上分布



ハビタットモデルのフレームワーク

現在取り組んでいる研究

既存のハビタットモデル (分布) に動物の密度・行動特性を組み込む新たな手法の開発

